

心のケアを大切に、 多様な生徒の多様な進路を 教員一丸となって実現する

▶ 武南中学校・高校(埼玉・私立)

取材・文／笹原風花

丁寧なカウンセリングにより 入学時の敏感な心をケア

武南高校では、入学時の心のケアに重きを置いている。専願入学であっても併願入学であっても、高校という新たなステージにおいて気持ちを前向きに切り替えさせることを重視しているためだ。「入試に失敗した『行きたい高校に行けなかった』という認識で止まってしまっている生徒の気持ちを『マ、マでがんばろう』に生徒自身が変わっていきけるよう支援することが大事」と野口悠二先生。新入生研修時など、折に触れて「学校生活における不安や悩みがあれば相談してほしい」と伝え、同時に高校での学習法や心構えも指導している。

そんな生徒たちを支えるべく、進路指導室や隣接する「ガイダンスルーム」において、進路に関するさまざまな相談や面談を行っている。進路指導室には豊富に資料が揃い、最新の入試情報が得られる。また、ガイダンスルームでは、進路に限らず学校生活や友人関係のことなど、どんなことでも相談できる。

「長く主担当を務めてきた教員がカウンセリングの専門家でもあり、悩める生徒にとっては心の拠り所となっています。毎年、ガイダンスルームに通うなかで少しずつ表情が明るくなり、学校生活に馴染んでいく姿が見られます。生徒のカウンセリングに加え、保護者向けのガイダンスも開催し、子どもとの関わり方なども話してくれています。生徒の心理面のサポートや保護者対応などを一緒になって担ってもらえることは、担任を務める者にとっても大変心強いです。今後は体制が変わる可能性

もありますが、学年ごとに役割を引き継ぐことを考えています」(野口先生)

何よりも生徒の心に響くのは 社会で活躍する卒業生の話

ガイダンスルームなどで個別にサポートしながら、全体の進路指導においても、生徒の気持ちを未来に向ける、生徒の気持ちに火をつける、という機会を設けてきた。1年次の進路学習のテーマは、「自己分析と文理選択」。総合的な探究の時間のな



進路指導主事
野口悠二先生

進路指導の課題とテーマ

「真に健全で個性豊かな人間教育の樹立」を建学の精神とし、1963年に開校。以来、文武を両立させて学び、行動することで豊かな創造力を育てる「文武創造」を目指してきた。実際、スポーツを中心に部活動が盛んで、特にサッカー部は全国大会で優勝経験もあるほどの強豪だ。また、建学の精神にもつながる合言葉「それぞれの個性・それぞれの青春」は、教員の間に浸透し、生徒一人ひとりの個性を尊重した教育を実践している。

進路指導においては、国公立大や難関私大を目指す生徒をはじめ多様な進路を希望する個々の生徒を尊重した指導を行ってきた。近年は専願での入学者が増えてきたものの、第1志望である公立高校の併願校として受験・入学してくる生徒も少なくない。こうした高校受験において苦い経験をもつ生徒に対して、「武南でがんばろう」という前向きな気持ちをいかにもたせるかが課題となっている。そうした背景もあり、武南高校では伝統的に生徒の心理面のサポートに注力し、カウンセリングと一体となった進路指導を行ってきた。また、卒業生や大学教員といった外部関係者の協力を得ながら、生徒の心に火をつけ、挑戦を後押しするための取組も進めている。

○進路状況(2021年3月実績)

大学進学406人、短大進学9人、
専門学校進学41人、就職3人、
その他(受験準備など)53人

国公立大学には17人が合格。特進コース、選抜コース、中高一貫コースにおいては約9割が一般選抜で国公立大学、難関私立大学を中心に受験。進学コースでは約4割が一般選抜、約6割が総合型選抜・学校推薦型選抜を受験。全コースで英単語の小テストを毎朝実施するなど、学習面の指導も充実している。

○School Data

1963年開校 / 普通科：特進コース、選抜コース、進学コース、中高一貫コース/生徒数512人(男子285人・女子227人)

ツール1 1年次2学期用ポートフォリオ

ダウンロード可

1年2学期ポートフォリオ

作成日 月 日 ()

1. 学習面について
日頃の授業から、2学期に受けた到達度テスト、定期考査、進研模試などを振り返って、自分で頑張った科目や反省点など、具体的に記入しましょう。

頑張った科目・取り組み内容・結果	今後の目標・努力すべきこと
科目【 】	
苦手な科目・反省点	成績向上のために必要なこと・目標
科目【 】	

2. 部活動について
部活動に所属している人は、日々の部活動における自己評価や、2学期中に開催した大会があればその正名と結果、今後どのような点に意識して部活動に取り組みたいかなど、具体的に記入しましょう。

部活動にどのように取り組んでいるか	今後の目標
頑張った点	反省点・改善点

大会名(日付も記入)【(/)】】(/)】

結果	頑張った点

3. 学校生活について
クラスの活動や委員会活動など、自身の役割について取り組み状況や今後力を入れて取り組みたいことなど、具体的に記入しましょう。

委員会・係【 】	取り組み内容	今後力を入れて取り組みたいこと

4. 資格・検定について
2学期中に取得した資格や検定があれば、正式名称と取得した日付を記入しましょう(英語検定の場合はスコアも記入すること)。

取得した資格・検定	スコア
【(/)】	【 】
【(/)】	【 】
【(/)】	【 】

5. 課外活動について
学校以外の活動で、何か取り組んだことや成果があれば記入しましょう。

取り組んだ内容	成果・さらに頑張りたいこと

6. 気になるニュースについて
現在、気になっているニュースをまとめてみましょう。

【 】について		
内容	選んだ理由	ニュースに対する自分の意見

12/4(土) 総合的な探究の時間

ポートフォリオを作成しよう！

高校生活が始まり、あっという間に2学期を終わらせています。皆さんは、この2学期間どのように過ごしましたか？学業・部活動・課外活動・生活習慣など、取り組んだことやそれによって得たもの、学んだことなどあったのではないのでしょうか。その学びや気づきを「記録」し、自身の成長へ繋げましょう。

○ポートフォリオとは？

学校活動での学びや、取得した資格・検定、学校以外の活動などを記録するためのツールです。記録することで、どのように取り組んでいたかを振り返り、今後どのような学び・成果につなげていくか、参考にしながら将来の目標設定に役立てることができることができます。またインターネット上に蓄積することで、いつでも振り返ることができます。

学校生活の様々な活動 → 記録・蓄積 → 振り返り・目標設定

繰り返すことで、成長へとつながる！

たとえば…

学習 ・定期考査の結果 ・模試の結果 ・頑張った点 ・反省点、改善点 ・次回の目標 など	部活動 ・大会名、結果 ・目標 ・練習の成果 ・反省点、改善点 ・頑張った点 など	学校生活 ・クラスでの活動 ・委員会活動 ・生活態度 ・反省点、改善点 ・頑張った点 など	資格・検定 ・英語外部試験(英検、TEAP…)など など	課外活動 ・クラブチーム ・ボランティア など
---	--	--	---	---

これらの記録を日頃から蓄積することで、当時の活動がいつでも確認できるため、受験の際に活動報告書などを書くときにも役立ちます！

活動報告書とは…

組合型選抜や推薦入試に多く、出願の際に高校での活動で頑張った点を詳しく記載する必要がある！

3年生になってから急に準備を始めても、1、2年生のころを細かく思い出すことは困難なので、今のうちから記録しておくことが大切。

○どのような点に気をつけて記録すべき？

【記入例】

1. 学習面について

頑張った科目・取り組み内容・結果	今後の目標・努力すべきこと
科目【 古典 】	・模試の偏差値を60まで上げる。 ・クイズミスをしてしまったので、完璧に覚えられよう引き続き問題を解く。 ・古典の試験でクラス1位を取る。

部活動やその他の活動の記録も同様です。できるだけ具体的な活動内容等を記入し、目標設定を行い、それに向けてどのように努力すればよいと考えましょう。

☆それぞれで、実際にポートフォリオを作成してみましょう！

記入したら、写真を貼ってその画像をポートフォリオにアップロードし、アルバムを作成して追加しておきましょう！

Class → ポートフォリオ → 活動記録作成

- タイトルに 1年2学期ポートフォリオ と入力してください。
- 本文のテンプレートは プロセスの記録 を選択してください。本文には写真も入力しなくてもいいです。
- 完成したポートフォリオの写真を添付ファイルに保存してください。
- 作成を完了するボタンをタップして終了です。

作成できたら 「アルバム作成」 → 「追加」

- ポートフォリオ (入力する) をタップし、「アルバム」タブより新規作成する。
- アルバムタイトルを ポートフォリオ とする(日付、縦書きは入力しなくてもいいです)。
- 作成を完了するボタンをタップする。
- 「アルバム」タブのページへ戻り、画面下の 既存の活動記録を追加 をタップする。
- 作成した1年2学期ポートフォリオを選択し、追加する。

提出締め切り 12/23(木)

学問の世界に触れることが、課題研究への足がかりになる

2年次の進路学習のテーマは、「大学

かで、自己分析や将来の進路について教材などを使いながら深めつつ、興味・関心の幅を広げていく。なかでも「生徒にものすごく響く」と野口先生が言うのが、1年次11月に行うイベント「社会人から学ぶ」だ。講師を務めるのは、社会で活躍する同校の卒業生ら20人余り。少人数に分かれて話を聞くため、対話型で距離も近い。

「今はこんな仕事をしている、在校中はこんな悩みがあった、こんなことをしておくといい…」など、卒業生はいろんな話やアドバイスをしてくれるのですが、生徒への伝わり方が全然違うんです。私たち教員が勉強しろ、将来を考えろと言ってもなかなか響かないんですが、斜めの関係というか、そういう存在に言われると響くんですよ。例えばある生徒は、『人生を楽しんでいることがすごく伝わってきた。身のまわりの小さなことから叶えていくことは今すぐできるし、自分もやっていきたいと思った。この講義で人生観が大きく変わった』という感想を書いていました」

活動内容や進路学習を通して感じたこと、振り返りなどは学期ごとに紙のポートフォリオに記入。書いたものをタブレット端末で撮影し、画像をPDFで保存している。「1年生のうちからコツコツと溜めていくことで、後から振り返るときの引き出しになる」と野口先生。実際、3年次の進路指導でも役立っている。

ダウンロード可

※ダウンロードサイト：リクルート進学総研 >> 発行メディアのご紹介 >> キャリアガイダンス (Vol.441)



今年度の「社会人から学ぶ」の様子。事前アンケートで生徒の希望を聞き、自分の興味・関心のある分野で活躍する講師（卒業生）の話を聞けるよう配慮している。少人数のため双方向のコミュニケーションが可能で、社会人の本音を聞くことができる。

入試制度を具体的に知り志望校を決定」。その過程で探究の手法を学び、課題研究に取り組む。課題研究のテーマ選別に役立ててほしいと、2年次6月には「大学出張講義」を実施。大学の教員20人余りを講師として招聘し、それぞれの専門分野について研究内容や学問の面白さをゼミ形式でレクチャーしてもらう。専門分野は多岐にわたるため、生徒は自分の興味・関心のある話を聞くことができ、アカデミックな世界に触れられる貴重な機会となっている。

「本校では伝統的に、管理職も含めて全教員を挙げて面接・小論文指導にあたっています。生徒の希望する進路に応じて進路指導部で担当を割り振り、教員1人が生徒3〜4人を受け持つ個別に対応しています。大学入試が多様化するなか、総合型選抜以外でも面接や小論文が課せられるケースが年々増えており、今年度、指導の対象になる生徒は200人ほど。夏から2学期にかけては、空き教室や廊下など、校内のいたるところで教員が生徒を指導する姿が見られます」

それぞれの業務に忙しいなか、教員は協力的だ。「多様な生徒の多様な進路実現を支えよう」という共通認識があり、みんな面倒見がいい」と、野口先生は言う。

ま。最後にクラス内で発表するのですが、タブレットで資料を作成して投影する生徒、紙芝居でわかりやすく伝える生徒など、それぞれのやり方で発表しています」

多様な目標に向かい努力する 多様な生徒を全教員で支える

2年次3学期からは、小論文や志望理由書の書き方など、大学受験を意識した内容にシフト。3年次5月の「受験ガイダンス」後には、この大学・学部などの選抜を受けたのか、受験に必要な科目や過去問の傾向はどうかといった具体的な情報について、先輩が残した「受験報告書」などを参考に調べてまとめ、提出する。そして、提出された進路希望を基に、野口先生ら進路指導部の教員は動き出す。

「本校には希望進路に応じて4つのコース（特進コース、選抜コース、進学コース、中高貫コース）があり、進学コースのうち1クラスはスポーツクラスで、国公立大学を目指す生徒から本格的にスポーツに打ち込む生徒までさまざまです。それぞれがそれぞれの目標を掲げ、青春をかけてチャレンジしていくというのが本校のスタンスで、『それぞれの個性・それぞれの青春』を合言葉にしてきました。この精神や合言葉は、教員の間にも深く浸透しています」

「行けるところ」に妥協せず、 行きたい大学に挑戦してほしい

最後に進路を選ぶのは、生徒たち。しかし、面談中に高校入試の苦い経験がフ

成果と課題

外部と連携し、社会や大学を 肌で感じる機会を増やしたい

野口先生の印象に残っているのが、総合型選抜で志望校に合格したある生徒の「自分から動いた経験が大事なんだと実感した」という言葉だという。

「派手なことや目立つことではなく、日常的な小さなことでも、自分から動いた、自分からやってみたということに意味があると気づいた、と。そして、それを自分の言葉で書いたり話したりして表現し、入試にも合格できたことで自信になった、と。高校生活を通して

ラッシュバックしてしまう生徒や、大学入試では絶対に失敗できない・したくないと頑なになっている生徒、挑戦を避け合格安全圏の大学や選抜方式を選ぶ生徒も少なからずいる。加えて、保護者も安全志向が強い。今年度も3年次11月というタイミングで保護者会を開き、「選ぶのは本人たちです。チャレンジを後押ししましょう」と訴えた。

「保護者の方も、『うちの子が行けるところはありますか？』と聞いてこられるんです。生徒や保護者の気持ちは理解しつつも、『行けるところ』ではなく『行きたいところ』に行こうよと、そのためにがんばろうよと訴えています。これからも、進路指導を通して挑戦することの価値を伝えていきたいと思っています」

こうした気づきを得てくれたことを嬉しく思い、また成長を感じました」

今後は、「学校外の人や企業とものつながり、生徒が社会や大学をダイレクトに感じられる機会を増やしたい」と野口先生は意気込む。

「『社会人から学ぶ』や『大学出張講義』が生徒にとって大きな刺激になっているのを目の当たりにしてきたので、コースごとに実施したり、回数を増やしたりして機会をもっと増やしたいんです。学校内のリソースだけではできないので、外とのつながりや連携を強化して実現したいと考えています」